

カリキュラム・マネジメントで拓く子供の学び

～教科横断的指導計画が生まれる前にある大事なこと～

柏市立酒井根東小学校

1 はじめに

本校は、平成29・30年度に、文科省カリキュラム・マネジメント（以下カリマネ）調査研究協力校として、新学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」「資質・能力ベースのカリキュラム編成」の実現に向け2年間の研究実践を行った。

2 総則に示されているカリマネ手順

カリマネについて新学習指導要領解説（総則編）に「自校の教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題を明確にし、教職員間で共有し改善を行うこと」（P40筆者略）とある。実施手順例も以下のように記述されており、本校ではこの手順を参考に実施した。

- (1) 教育課程編成に対する学校の基本方針を明確にする。
- (2) 教育課程の編成・実施のための組織と日程を決める。
- (3) 教育課程編成のための事前の研究や調査をする。
- (4) 学校の教育目標など教育課程の編成の基本となる事項を決める。
- (5) 教育課程を編成する。
- (6) 教育課程を評価し改善する。

3 カリマネ手順に沿った実践

(1) 基本方針を明確にする

平成29年4月3日、最初の職員会議で全職員を対象にワークショップを実施し、本校児童の強みと弱みを出し合った。そこで職員から出た内容を整理し、本校の教育活動全体を通じて「やりぬく力」を育成することを基本方針とし、目指す児童像「目標に向かい友だちと共にやりぬく子」を設定した。

(2) 教育課程編成の組織と日程

① 組織づくり

学校経営グランドデザイン（本校Webサイト参照）を示し、学び・心・動きの三つのプロジェクト（学び＝授業、校内研究、心＝生徒指

導、特別支援、動き＝特別活動）を組織し、関係する校務分掌と職員を割り当て、プロジェクト型組織とした。各プロジェクトにおける課題解決方法は「授業改善」「外部人材活用」「周知と広報」とし、その具体策はプロジェクトリーダーにある程度任せる形とした。

② 日程

年2回の教職員の自己評価、学校評価を基に、教育課程創造会議（以下、創造会議）を夏季休業中と3学期に計6回開催し、全員協議の場を設定した。

(3) 事前研究と調査

「やりぬく力」は校歌の歌詞にあり、地域等の協力体制が強固であることが強みである。一方、教職員のカリマネ自己評価（41項目・4点尺度）の平均値は2.7、児童の精神面の弱さが課題であり、弱みと分析した。

(4) 教育課程編成の基本を決める。

① 本校で育む資質・能力を設定する

創造会議において、本校が目指す「やりぬく力」の育成に必要な資質・能力を、教職員全員によるワークショップを通じ、「7つの資質・能力」が納得解として設定された。

② 資質・能力と教育活動をつなぐ

「7つの資質・能力」を指導要領上どの教育活動で育むか、創造会議で重点化を図った。

教科指導	自己肯定感	考える力	見通す力
特別活動	感じる力	継続力	人間関係力
道徳	自己決定力	自己肯定感	継続力
総合的な学習	自己決定力	人間関係力	
外国語	感じる力	継続力	人間関係力

(5)教育課程を運用しながら編成する

①PDCAからDCAPサイクルへ

教育課程のPDCAを効率よく展開させるためには、授業や活動後すぐに次年度の計画を立案して終了するよう、教職員のルーティンの変更を促した。これは、目指す姿の実現に向けた教育活動として最適かどうか、実践後すぐ行うリフレクションが最良であると考えからである。特に2年目となる平成30年度は確実な計画立案に力を入れた。

②月例目標を動詞で示す

「やりぬく力」につながる、月ごとの教育活動の指針を4月は「知る」5月は「合わせる」というように、当該月の学習や行事等との関連を意識した動詞で示し、児童・職員・保護者の行動目標につなげた。

4月 知る 友達、先生、新しい環境を知ろう	11月 ねばる 持久走 自分の目標を達成する
5月 合わせる 運動会 動き、声、心 を合わせる	12月 振り返る 2学期をふり返り まとめよう
6月 力を合わせる 学習の中で 林間学校で 協力	1月と2月 つくりあげる 1年間の学習を活かして
7月 振り返る 1学期をふり返り まとめよう	3月 まとめる 卒業 進級 1年を振り返り希望を
9月 力を合わせる 高二協働 中二協同 低二共同	年間 月別キーワード
10月 挑戦する 歌声集会 学習 部活動	

③外国語活動を教育課程に位置付ける

新学習指導要領への移行に向け最大の課題は外国語活動の位置付けである。目指す姿の実現に向けた外国語活動の指導過程をプロジェクト会議で次のように決めた。

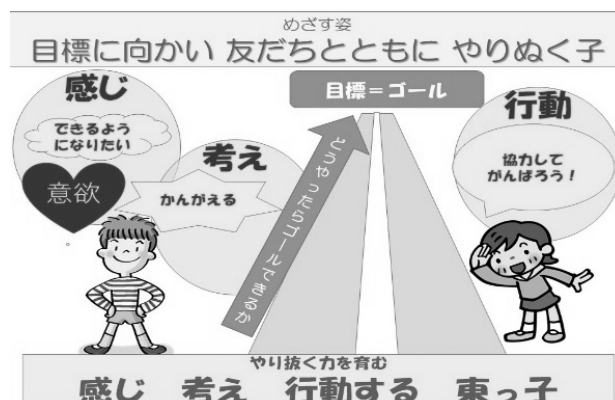
- ・麗澤大留学生との交流会を実施する。
- ・モジュールを活用した指導と1単位時間の指導を関連させる。
- ・モジュールを活用した指導では、麗澤大外国語学部学生と協働する。

これにより、本校は外国語の教科化に向け平成29年10月から高学年週2時間を実現し、平成30年は全面移行することができた。作成した年間指導計画では、留学生交流会をゴー

ルに設定し、英語への意欲喚起や内容定着を図り、資質・能力の育成が「やりぬく力」の醸成につながるようにした。麗澤大学の学生たちもモジュールの時間に子供の興味を喚起する工夫を凝らしたり、留学生交流会の企画を工夫したりした。

④主体的・対話的な授業への転換

「やりぬく力」を育むための授業や活動イメージを下図のように示し、全教室に掲示し、「感じ・考え・行動する」を基本とした。



学習のゴールの明確化は、対話の必要性を生み、ホワイトボードの活用が対話に効果的であると授業研究から見出され、全学級にホワイトボード（グループ用8枚、個人用全員分）を購入し、授業改善が大きく動き出した。

⑤学校図書館を支える地域の力

本校の課題として読書量が少ないことを地域に投げかけたところ、地域住民の有志13名が始業前の学校図書館の開館を実現した。平成30年1月から毎朝多くの子が図書館に立ち寄り、貸出量の増加と、地域との協働授業も動き出した。

(6)教育課程を評価し改善する

2年間で4回実施した教職員のカリマネ自己評価結果は、2.7→2.9→3.2→3.4と上昇し、カリマネの良さが共有され、総合的な学習の時間を軸とした教科横断的な教育課程への再編とコミュニティースクール化に向けた取組につながり、今まさに稼働中である。